

短

歌

鮎澤 永二

鎌倉に来てみほとけの慈悲ふかきなさけのみ心にちから湧きくる
鎌倉の星影を永久に忘れ得ず妻の亡き夜の天の川澄む
耳朵を揺さぶるがごとくすがすがし鎌倉のみほとけと別れきにけり

安藤 おいも

(八松小学校)

大根をおろしてみたらものすごく時間がかかる 今日は大会
ぼくは今総理大臣ではないけれど総理大臣にいつかなるかも
大すきだずーっとずーっと大すきだそのままずっと大すきだ

安藤 みなも

目覚めてもまだ空腹の猿たちが味わっている夢の木蓮
うつくしい第一関節たゆませてあなたは夏のほころびを縫う
次々とマンションが建つこの街のかたちに空は小さくなれり

伊井 かずひろ

如月の桜の蕾まだ固し千両役者は楽屋に入る
バスタブに柚子の実ひとつ漂いて寒い國ではいくさはトまる
江の島の椿の花は赤く咲きキエフの春ははるかに遠い

市川 セイ

相模野の朝露清しゴーヤ採る二百十日は穏やかに過ぐ
真紅なる芙蓉の花は訪れし我を迎えり若やぎし友
暑き日の大庭城址に山吹き返り花咲く空堀り近く

大澤 清水

掘削の音と消えさる山一つ夕日が染める街並揃へ
清風さやに香が届く金木犀の窓辺に寄せて一日安らぐ
葡萄棚実を食む鳥の甲高ししばしの間鳥巢ごもり

リスの棲む森の切株に腰かけて小鳥の声を聞きをりわれは
きりぎしになだれて咲ける山ふちの紫のいろ空にとけこむ
万太郎句集読みつつ下町の人情あつき昭和をしのぶ

太田 博

(歩道短歌会)

加藤 和彦

(なぎさ短歌会)

梨ぶどうたわわに実る夏の日目に入る幟藤沢地産
脳トレか朝昼夕に眠前と服薬増やす夫婦共ども
「癌です」と八十の壁前にして長寿時代が故のお沙汰か

唐沢 小夜子

午前二時白く輝く窓・窓・窓急ぎ外に出て名月を見る
元氣よく声をかけくる幼女あり初秋の朝を草引く吾れに
死ぬ時は死ぬ覚悟して生きねばならぬ毎日よやさしくありたし

き
よ
じ
い

風が諏訪神社の太鼓の音を運んでくる夏休みと暑さが終る
潮騒が夢の中でひびく起きよう！。 今日も晴、南の風、夏。

木
村
恵
理

山霞峠にかかれば涼風に真夏の暑さしばしわする
捕獲後に忍者のごとく姿勢しジャスミン食す蛾の幼虫
群れなして川に飛びかう赤とんぼ夏も終りかかぜいろの時

黒
田
良
子

「コロナ禍に自粛の時代もあったよね」早く云いたし曇天の朝
トランプのカードと増えし診察券一枚抜いて今日は歯医者に
公園に遊ぶ幼ら手を繋ぎ双葉のような帽子にはしゃぐ

小橋 和子

公園の鬱金うこんざくらの薄黄色年経へし今の心になじむ
幸田文の「北愁」読むとき生きてゆく詮かたのなき哀ししさなじむ
子や孫の加護を願いてわが母は日々の写経しじょうを続けし四十二年

常保 恵美子

世界遺産「和食」に励む主婦私の茄子の揚げ物一瞬の紺
犬の年（88歳）飼い主の目元やさしくほつと感動
通帳は小額なれど銀行のカレンダー新鮮一幅の絵

高橋 美津子

妹共に母の齢を超えぬそは母へのせめての孝と春彼岸
電動歩行車ギア、ストッパーと扱い難夫の墓参をと習う暑き中
デイケアし済みわが戸口まで若スタッフ腕組みくるるを羨む人あり

開演まであと七分の紅葉坂前傾姿勢息切らしゆく
書道展の作品仕上げ筆洗ふ蠟梅の香に気づける夕べ
虫の声透る深夜のベランダで臥待月を一人浴びをり

竹中亮子

ドローン飛び園児等迎える金時山難関突破す黄色の帽子
雷鳴は地響きたてて窓越の樹齡二百年の櫟真つ二つ
限りある余生とあればコロナ禍も共存しつつ旅に出ようか

田村孝子

新郎の母となり日につないだ手大きな温もりかみしめ歩く
祝福の拍手の中で幸あれ幸あれ心で祈る
花束と手紙に込めた数々の思い送られ息子に感謝

角田美香

戸村 忠子

(歌の広場かながわの会)

理不尽なロシア侵攻ウクライナ受けて立つともなお果しなき
人類の自由平等願いつゝ果なき宇宙へ燦めく星に
碧空の下緑蔭深き長久保の園歌声高く老いも若きも

西田 朝子

白雲の隙間より照る夕日ありまぶしかりけり姿勢を正す
子の持ちて来し百日草えんじにて素晴らしき色心にしみる
夕焼けが雲間に赤しカーテンを閉めつつ見惚れ我を忘るる

佐々木 波透

(渡内きらり四季の会)

シエルターで生れし嬰兒にミルク無くてうろたえる若いキーウの母よ
二万人の警備あつめし国葬の前夜に響く反対のデモ
ウクライナは停電の秋ろうそくの灯で学ぶとふ地下壕の少年

くちなしを贈りし人の胸のうち数十年経て今ぞ知るなり
幼き日「雨々降れ」とうたいたる蛇の目の迎えなつかしいうた
教会で愛餐会の用意するあすは「父の日」メニューは秘密

広瀬 洋子

わが庭に植えて育てし真夏日にミニトマト食む柿の木陰に
長文の我のメールに日を置きて孫の短文温き返信
慣れし道歩を早めたり遅めたりわが家は遠し八十路のわれは

森 睦子

抱きたるイエスを包むほほえみは優しき風となりて纏^{まと}へり
平和をと一彫りごとに祈りしや彫り跡残せし木のマリア像
原城に埋もれし三万の魂よほほえむマリアに安らぎを得む

山本 澄子